

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		KID ACADEMY 大倉山校				公表日	2025年 2月 18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	個別療育用の部屋と集団療育用の部屋を分けています。			
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0		基準は満足しているが、今後は職員数の余裕が必要になってくる。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0	極力バリアフリーになっている。過大な刺激にならないよう、なるべく掲示物を無くしている。 玩具を子どもが自分で選ぶことができるよう、玩具ボックスに写真を貼ることを工夫しました。			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	換気、消毒、室内清掃を徹底しています。また、教具や玩具の整理整頓を心がけています。			
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用するこどとが認められる環境になっているか。	4	0				
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	毎朝カリキュラムミーティングを実施し、各児童の目標と振り返りを確認している。 改善点が相談できる環境にある。			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	毎年保護者向け評価に対する業務改善を検討している。			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	毎朝のカリキュラムミーティング、毎月の校ミーティングで職員の意見を把握し、業務改善するよう努力している。			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4				
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	研修カリキュラムが充実しており、療育に関する知識を深め、実践しています。また、指導員間で互いの療育を見学し合うことにより、療育実践の学び合いを行っています。			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0				
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	0	保護者様との個別支援計画に関わる面談を適切に行ってあります。個別支援計画の達成状況をお子さまのモニタリング表を通して、わかりやすくお伝えすることができるよう工夫しています。			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	支援会議を実施し、児発管が作成した支援計画原紙を職員でチェックし、職員の意見も反映して支援計画を作成している。			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	支援会議で共有をしていつでも見られるようにしている。			
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	支援記録に記録し、翌朝のミーティングでその記録に基づいて話をしていく。また、誰がいつ、どのカリキュラムを実施したかのカリキュラム実施表も作成し利用している。			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	毎朝のミーティングでチームでカリキュラムを立案している。カリキュラムが偏らないよう、また担当者が偏らないよう配慮している。			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	カリキュラム実施表及び支援記録を見ながら固定化しないよう工夫している。 季節のプログラム、自分の好きなものについて話して楽しむプログラムなどを取り入れています。			
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	個別と集団両方を実施できるよう計画している。			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	朝のカリキュラムミーティングで実施。午後からの職員には都度伝達している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	支援記録に実施した内容、そのときの状況を記録し、また問題があった場合には、それも記録して次回のカリキュラムミーティングで話をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	6ヶ月に1回。個別には毎朝のミーティングで実施。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	関係機関の連携として園の先生と情報共有している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	子どもの状況をよく理解した児童発達支援管理責任者や指導員が、保育園・幼稚園を訪問しお子さまの様子を見学させていただしたり、先生方と会議を行って支援方法の共有を行ったりなどの取り組みをしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2		
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	2		
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	療育の後には、お子さまの様子を記載した振り返りシートを毎回お渡ししたり、口頭で様子お伝えしたりして共通理解を図っています。また、連絡帳を活用しお子さまの様子をお伺いできるようにしています。毎月のマンスリーレポートでも、KID ACADEMYの活動をお伝えしています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	保護者会を実施している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	体験、契約時に丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	保護者のアセスメントを実施し、家族の意向は確認している。子ども自身については、日々の療育の中で確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	0	個別支援計画の原案と、指導員間での会議を通して修正した個別支援計画の本案についてのご説明を行って、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	連絡帳を通して日々の悩み等あれば、それに対しアドバイスをしたりしている。また必要時には個別面談も実施している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	保護者会を年に数回開催し、KID ACADEMYの取り組みや、家庭でできるお子さまとの関わり方の助言、保護者同士が連携できる場を提供しています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	0	マンスリーレポートを発行して保護者の方にお渡しをしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	視覚情報を併用し、また事前の計画提示に心がけている。	

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	マニュアルを整備。防災、火災訓練を実施。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0		一部の内容については、マンスリーレポートで周知しているが今後さらなる周知が必要。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハットを作成し、毎月の校ミーティングで情報共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0		